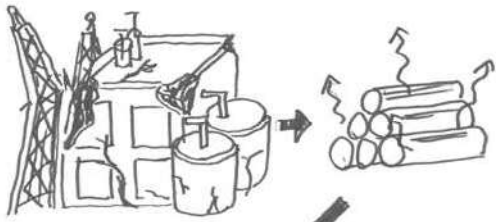




令和元年7月5日(金)

おもて

### 廃棄物はどこへ？



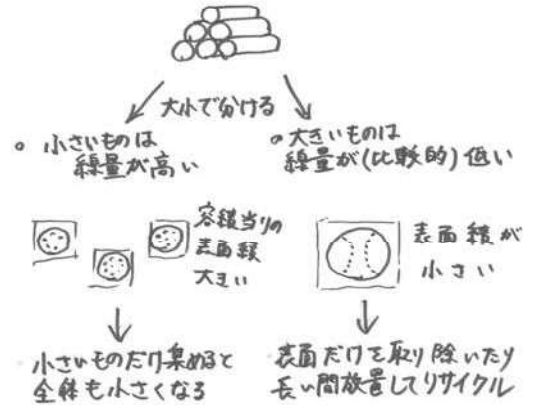
(背景)

除染で出た廃棄物でさえ最終処分場が未だに決まていないのに、高濃度の汚染を受けた建材やデブリを捨てる場所が決まるのだろうか？

うら

Q. 高濃度の放射性汚染物である建屋の建材やデブリはどこに廃棄されるのか？

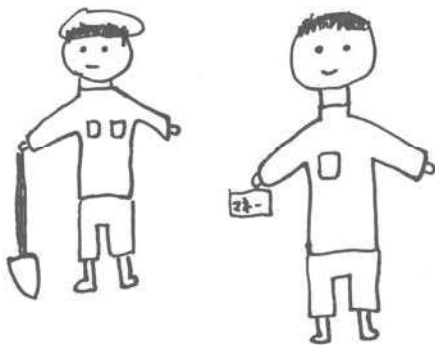
A. 減容化をして細かく分け、まとめて廃棄



科学的には時間をかけたり細かくしたりして、減容化できるが、社会的な合意を形成する必要がある。

おもて

### 作業員の労働環境は？



作業員はどのような人がなるのか、また安全なのか。

うら

廃炉作業をしている作業員は放射線の影響を受けていないのかまた、誰がなるのか。

<安全性>

- ① 震災から間もない時期は作業員の被曝線量が高かったが、除染作業が進み、現在はほぼ  $0.1\text{mSv}$  に抑えられている。
- ② 作業服は被曝に耐えるため、冬でも汗かきになるほどの量が出るという。熱中症になる人も多かったが、今はその対策を打っている。

<誰がなるのか>

東電社員の人も多いが、他会社からのエンジニアやパワーワーカーなどを通じて派遣された人達、協力の会社員が作業を行っている。

- ・労働環境は改善されている。
- ・それ以外の役割があり、分野ごとに効率良く作業が行われている。

おもて

また津波が来たら  
どうする!?



◇ 廃炉作業を行っている 30~40年の間に、地震や津波が起こる可能性は十分にある。その時に放射性物質がまた拡散してしまうのでは?  
対策は? そのための資金は?

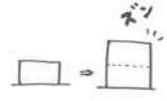
うら

再び、大規模災害が原子力発電所におよぶ場合、  
どのような二次災害が起こるのか? また、その対策は?

※ 廃炉作業中の原子力発電所を指す。

◇ 津波による浸水対策

① 既設防潮堤という、元来、防潮堤にさらに高いかべをつき、2.4m~4.2mの高さを防げるようにしている。



② 事故当時、電源設備に水が入りやすくなっていたために、津波が来た際にそれがショートしてしまっただけで、事故後、水がほこぼこ入らなければ扉を変え、冷却設備が常に稼働できるようにした。

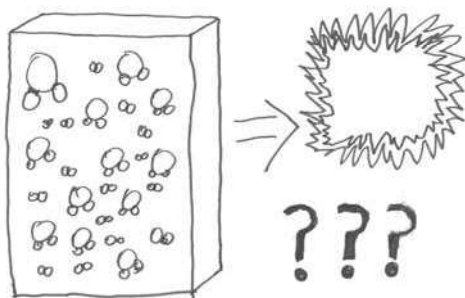
③ 資金は、国が東電に貸し出した(格別と北丹)

年間2000億 ~~円~~  $\yen 8,000,000,000,000$

◇ 根本的には安全対策は廃炉作業と長引かせればいっとテマリを早急にとりだし、除染処理することが大切。

おもて

再び爆発する危険  
はないのか?



そもそも前回の爆発はどんなものなのか?

再び爆発するのか?

うら

<2011年の事故>

↳ 水素爆発

水素と酸素が反応することで起こる

シリコニウム + 水蒸気 → 水素

<現在の状況>

放射線が水にあたり水が分解  
水素が発生!!  
↓  
どう処理しているのか?

窒素を入れることで内部の気圧を上げ  
水素を外部へ逃がし、酸素の侵入を防ぐ

この方法が現在正しいとされていて  
爆発を防いでいる。

→ 予測不能な事態が起こる可能性  
も 0 とはいえない

